

旧学習院初等科正堂

(1) 歴史 明治32年(1899)に東京市四谷区尾張町(現:東京都新宿区若葉町)に建てられました。昭和12年(1937)、当時の皇太子殿下(明仁親王)入学にあたり改築することになり、本建物は宮内省下総御料牧場があった千葉県印旛郡遠山村が新設する尋常高等小学校に下賜され、移築されました。その後、村立遠山中学校、成田市立遠山中学校と校名は変わりますが、講堂として使い続けられました。下総御料牧場跡に新東京国際空港建設が決まると、校舎防音の必要性から建替えられることとなり、昭和48年(1973)に重要文化財に指定後、昭和50年(1975)に現在地に移築保存され、一般公開しています。

(2) 建物概要 木造平屋建で、中央に広間を取り、背後に演壇が突出し、左右に控室が附属し、正面と側面にベランダをめぐらしています。屋根は寄棟造で、ベランダ部分は一段低く庇状にかけ、スレート葺です。外壁は下見板張りで、軒に持送りを付けています。

広間には桁行方向前よりに円柱を一行に並べ、演壇前面には柱頭飾りを施した円柱と方柱を一組にした柱列としています。壁はすべて漆喰塗りと

し、天井は格縁^{こうゑん}状の柾木の中に小巾板を張ったものです。床は広間が寄木張り、控室がマット敷き、ベランダが石敷です。

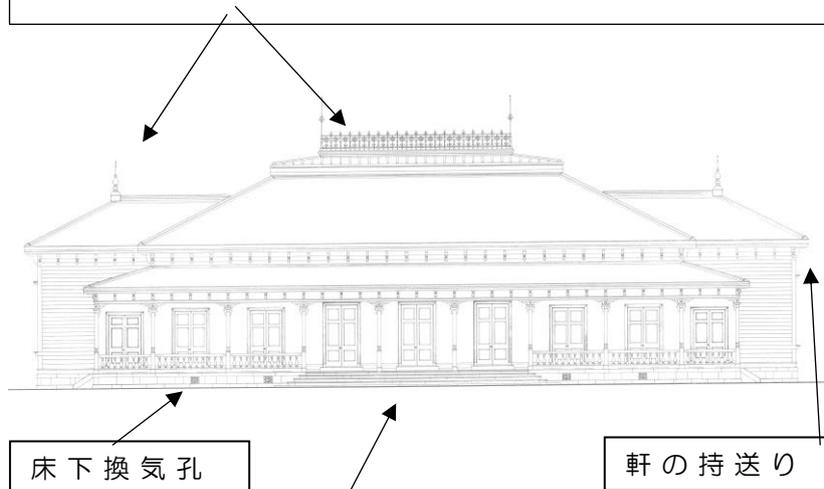
建物装飾が比較的少なく、意匠は簡潔ですが、様式手法は堅実で、落ち着いた趣きをもっています。移築に際して忠実に旧状を踏襲しており、旧宮内省所管の明治洋風建築としての風格を備えています。

(3) 設計者・新家^{にいのみ}孝正(1857-1922)

工部大学校でジョサイア・コンドルに学び、工部省、皇居御造営事務局、逓信省、日本土木会社を経て、フリーとなり活躍しました。シアトルの万国博覧会、日英博覧会等の日本館等、国際舞台での活動が注目されます。現在残る作品としては旧日本第一銀行仁川支店、旧川崎銀行水戸支店等があります。また東京国立博物館表慶館(旧奉獻美術館)は設計片山東熊^{とうくま}、設計主任高山幸次郎、現場監督新家孝正ですが、新家も設計に深く関わった作品です。

(4) みどころ

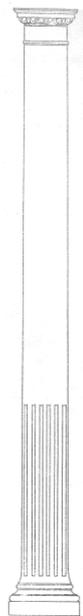
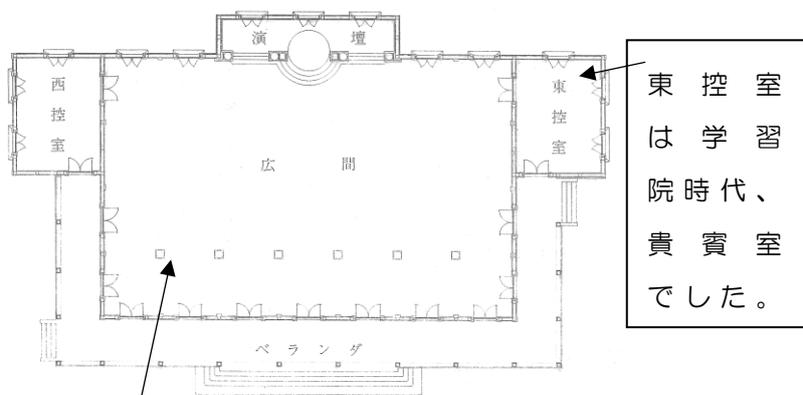
屋根の棟飾り 学習院時代の古写真にあった大棟と控室棟のフィニアル（建物の頂上あるいは角にある飾り）を復原しています。大棟両端に飾付きの避雷針、その間に唐草文の間飾り、控室棟には宝珠を重ねた飾りとなっています。一部残っていた床下換気孔金具の文様も参考にして、大棟間飾を復原しています。床下換気孔金具も復原していますので、ぜひご覧ください！



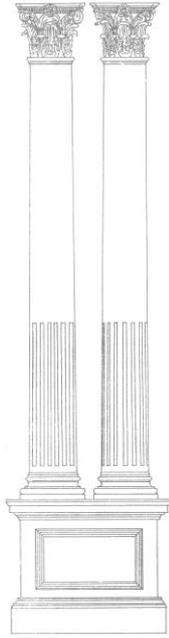
中央 3 間は特別 正面 3 間のみ、ベランダ床は御影石と粘板岩を亀甲型に敷き並べ、扉も桧の良質材の板扉で、特別感を演出しています。また中に入ると、正面 3 間の扉上部の飾りには菊風意匠が用いられています。

木部の外装ペンキは、白と青のツートンカラー
ツートンカラーは明治の洋風建築の特徴で、設計者新家孝正が明治 31 年に設計した別の建物も、この配色で塗装しています。

珍しい横長の平面形 後に一般的となる縦長の学校講堂ではなく、間口が広い横長平面です。これは、明治 23 年完成の学習院本館 2 階に設けられた正堂部分を踏襲したもので、明治 27 年の明治東京地震で大破した本館正堂部分を平屋に直し、旧部材も一部用いて拡張再建したと伝わっています。我が国古来の仏教寺院講堂を思わせる平面形ともいえます。

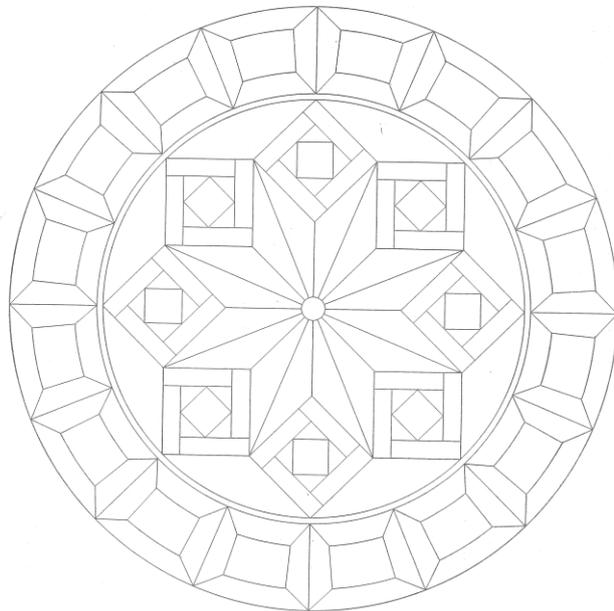


広間に 6 本並ぶ円柱はエンタシス 下約 1/3 辺りから上部にかけて徐々に細くしたエンタシスを施しています。下から見上げると、真っ直ぐな円柱よりも安定して見えるため、古代ギリシャ神殿や日本の法隆寺でも用いられた手法です。なお、下 1/3 には古代ギリシャの円柱にも刻まれた条溝（フルーテング）を彫り、柱頭はドリックオーダー風で、古典の様式美はバッチリです。

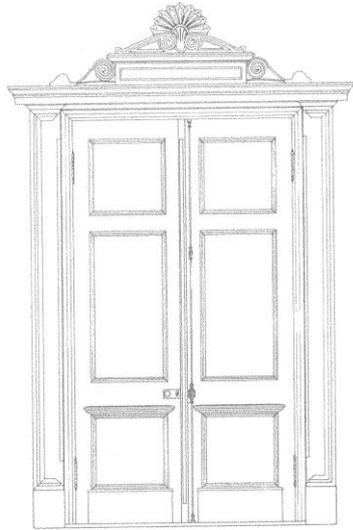


本格的なコリント風柱頭飾の演壇柱

演壇には、円柱と角柱を一組にした柱があります。柱のてっぺんの柱頭飾りは、櫂の寄木造りで、深彫で八葉を組み合わせ、隅に渦巻きを施すコリント風です。



広間床の寄木張り 広間床の寄木張りは、昭和48年の移築工事の際、昭和30年に重ね張した床の下から現れたもので、当初の状態を保っていました。材質は櫂で、8mm程の厚さで、当初はニカワで接着していました。そして演壇中央の直径2.5m程の幾何学文様の寄木張りは、上のおり、特に凝った意匠となっています。



広間出入口の扉と上部飾り

広間の出入口内部の上方に、西洋建築で扉や窓上部に古典的にみられる楕形のペティメントと呼ぶ装飾が付いています。この原型はギリシャ神殿正面の三角形破風です。左はアーチ状の上に菊風の意匠装飾が付き、正面 3 間の扉と控室入口扉の上方のものです。

窓枠と上部のカーテンボックス

演壇後方の窓 3 か所と、東控室の窓 3 か所に樺材のカーテンボックスが取付けられています。右はギリシャ神殿正面の三角形破風に似た装飾で、東控室のものです。

